



国土交通省 中部地方整備局

富士砂防事務所

Mount Fuji Sabo Office, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



Press Release

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

令和 6 年 4 月 18 日
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所

砂防施設（大沢川遊砂地）で土石流を止めました

4月9日に富士山大沢川の源頭部（大沢崩れ）で土石流（スラッシュ雪崩）の発生が確認されましたが、下流の砂防施設（大沢川遊砂地）で土石流を捕捉したため大沢川下流域での被害はありませんでした。

その後の調査で、大沢川遊砂地で捕捉した土砂量が約12万 m^3 （速報値）であることが判明したのでお知らせします。

1. 内容（別添1）

富士山周辺では4月8日～9日の降雨により、大沢川上流の御中道観測局で時間最大23mm（4月9日8時～9時）、連続雨量134mm（4月8日18時～9日12時）を観測しました。

9日8時20分頃、標高2100m付近の源頭部監視カメラで土石流の発生を確認し、その後も断続的に発生する土石流が確認されましたが、下流にある砂防施設（大沢川遊砂地）が効果を発揮し土石流を捕捉したため、大沢川下流域では被害はありませんでした。

その後、10、11日にドローンを活用した測量を実施し解析した結果、大沢川遊砂地で捕捉した土砂量が約12万 m^3 （速報値）であることが判明しました。

2. 配布先：富士宮市記者クラブ、富士記者クラブ、山梨県政記者クラブ

3. 備考：記者発表資料は「富士砂防事務所ホームページ」にも掲載しています。

<https://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/index.html>

また、土石流の映像はX（旧Twitter）に掲載しており提供可能です。必要な場合はお問い合わせください。

https://twitter.com/mlit_fujisabo

【問合せ先】 国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

副 所 長 土屋 郁夫

調 査 課 長 加藤 隼平

TEL 0544-27-5221（代表）

※スラッシュ雪崩：多くは、融雪期に生じ、気温の急上昇と降雨を伴って発生し、雪や氷とともに、多量の土砂を含み、流下する現象。

1. 大沢川の土石流と遊砂地の効果

別添 1

4月9日に富士山大沢川の源頭部（大沢崩れ）で土石流（スラッシュ雪崩）の発生が確認されましたが、下流の砂防施設（大沢川遊砂地）で土石流を捕捉したため大沢川下流域での被害はありませんでした。

その後の調査で、大沢川遊砂地で捕捉した土砂量が約12万m³（速報値）※であることが判明したのでお知らせします。



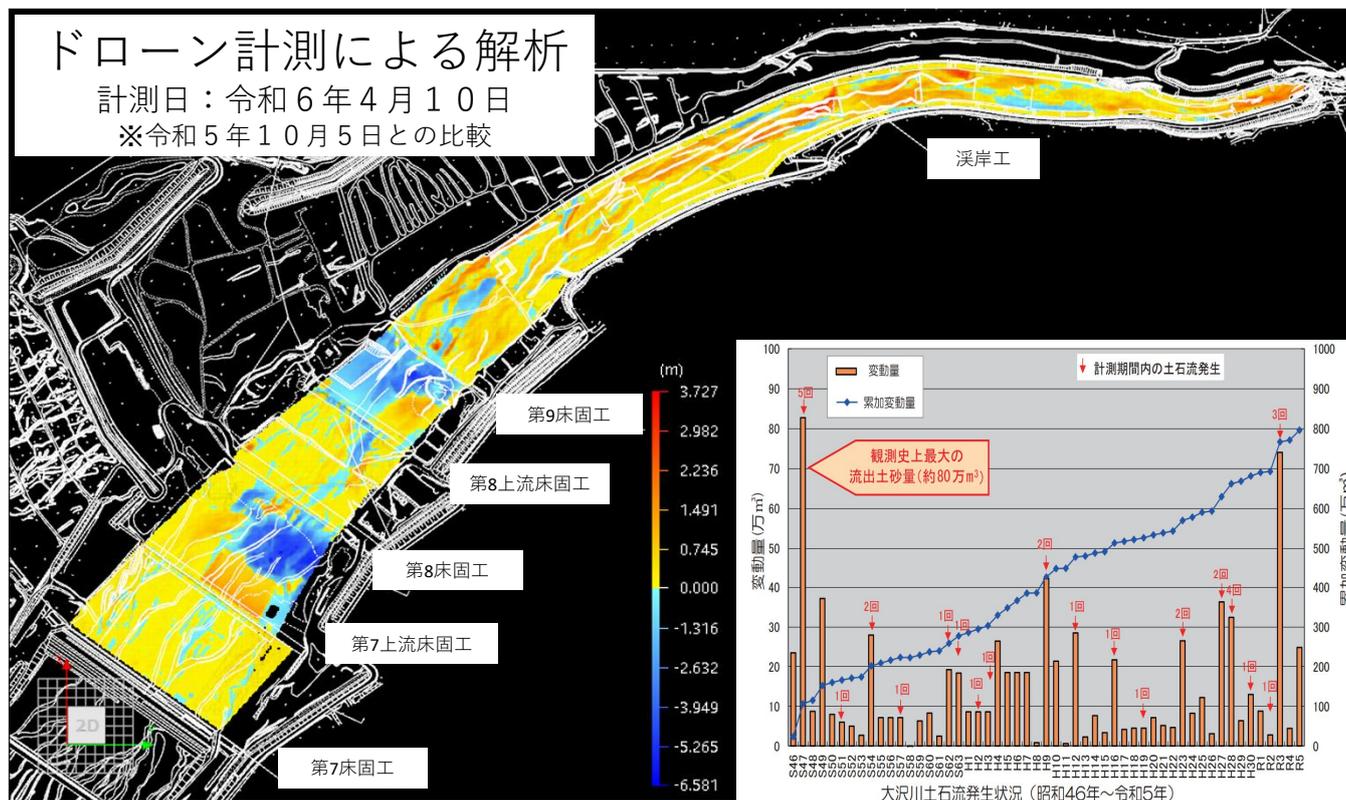
2. ドローンを活用した土砂捕捉量解析



令和6年2月 大沢川遊砂地
土石流発生前



令和6年4月10日 大沢川遊砂地
土石流発生後



大 沢 川 遊 砂 地
土砂捕捉量：約 12 万 m^3 (速報値) ※

※令和5年10月5日のLP測量結果とLP測量実施以降土石流発生までに施工した土砂掘削数量を考慮し、土石流発生後に実施したドローンによる写真測量より算出した堆積土砂量。

上記の図はLP測量とドローン写真測量の差分を示しているが、侵食傾向で表示される範囲（青）についてはLP測量後の掘削量が土石流による堆積量を上回ったことを示している。